

# 空を見えますか

〈第1424回〉

このところ、いやな事件が多い。誰でもよかつた、と少年が老婆を刺殺する。孫が祖父母を殺す。過度な教育熱への警告と称して、大学生を刺してしまふ。犯罪心理学に關してまったく無知な僕だが、これらの事件の遠因として、ふたつのことを思つた。ひとつは、我慢ができなくなつてゐるということ。何であれ、SNSの相談やネットなどで解決できてしまう錯覺に陥つてゐる。長いあいだ待つ、じつと耐えるということができなくなつてゐる。もうひとつは、ディスプレイによるゲームがリアリティを増してきて、空想と現実の境界が希薄になつてゐるということ。

クノロジーハラスメント……。今や、あらゆる場所、あらゆる状況で起き、非難される。兵庫県知事の事件は、その顕れたつたし、あつてはならないことだつた。だが、非難が過剰なことも少なくないのではないか。

た。順位をつけることもいけないのだ。「いじめ」が生まれたらオオゴト。モトから絶つておこつ、というわけである。

OL(オフィスレディ)

に「その服装、よく似合つてゐるね」と言つてはいけな

い。仕事の成否や進捗度についてならともかく、服装がどうかは、彼女の仕事の能力と無関係だから、だそうだ。ましてや、スタイルなどに関する話はタブーだ。褒めればいいのではない。褒めようがけなそうが、その話題自体がハラスメントなのだ。小中学校で、ピアノやウアイオリンなどに長けている子は、それを公表されたがらない、という話も聞いた。「特別なこと」「目立つこと」は、避けたほうがいい。運動会の駆けっこでは、全員が並んでいっしょにゴールイン、という話も聞いた。

## ハラスメント

かくして、余計なことはいやべらないようになる。当たり前障りのないことだけ言うようになっていく。腹を割つて話す、なんてこともなくなる。本音は隠して、うわべだけのうすつぺらな会話に終始するようになる。

何てつまらない世の中だ。僕らの子ども時代は、喧嘩すると「このヤロウ、ドテツ腹に風穴あけてネコぶちこんでカツオブシ放り込むぞ！」なんて怒鳴り合つた。本当に風穴あけるとは、誰も思つていない。当たり前だ。でも、吐きたいだけ、雑言を吐いた。

みずからが考え出したとてつもない兵器によつて人類はやがて滅亡する、と警告したのは故ホーキング博士だが、テクノロジーの進歩が思考を変化させ、それがじわじわと人類滅亡へつながつていく、とも言えるのではないか。ハラスメントはその具現のひとつだ。パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、ケアハラスメント、モラルハラスメント、テ

それができない。相談もできない。鬱憤はたまり放題。我慢ということが自分の辞書にない。現実に風穴あけてしまふか、となつてしまふ。ハラスメントは避けなければいけないが、こういうことは過剰になりやすい。冷静な思考を保つことが肝要だ。しかし、何とも、いやな時代になつてしまつたものだ……。

(作曲家)